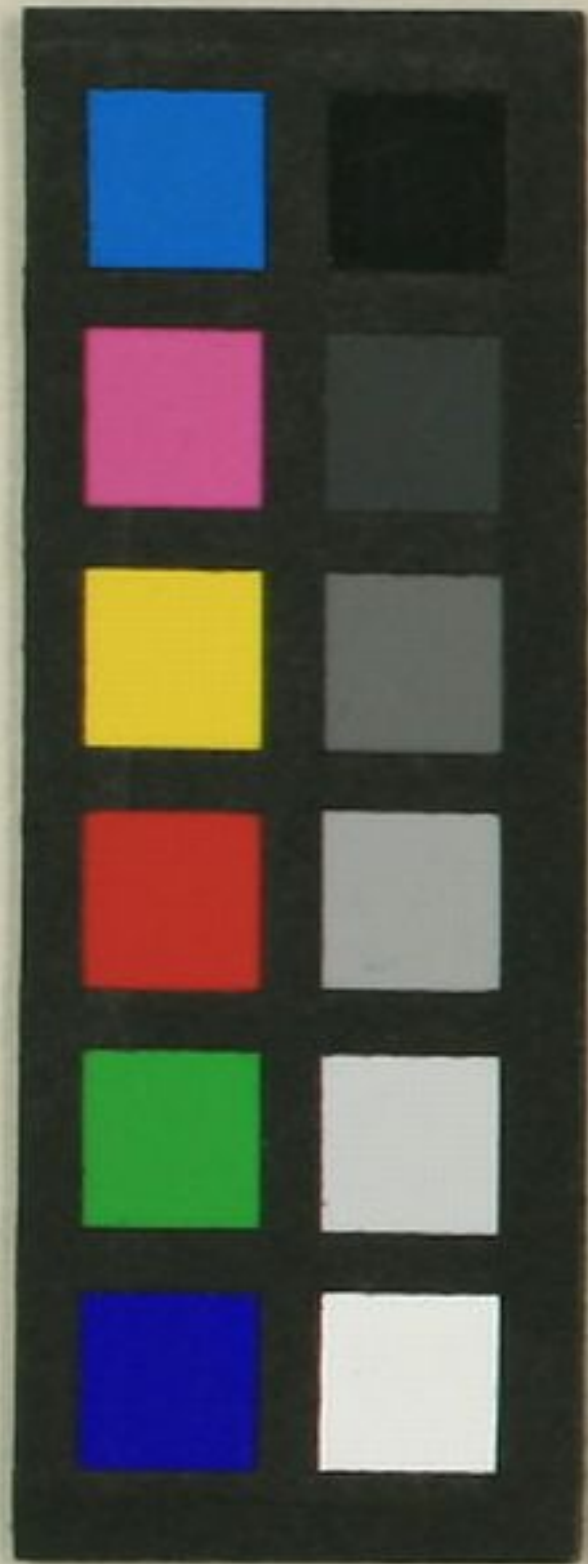


文明能化の歌
 遊て大徳の権護も
 海濱の往還さえも世よき並木通を
 戯場本舞臺書之溜り雷神門の
 思地へ向朱奈土の仁王 観音の御堂を高く仰ぎ右へ
 五重の塔をさるる千本橋の花紅茶時を彩風色ハ萬
 吉原三芝居遊樂愉快を極 繁昌名譽割烹家
 の大道具の目前故更 世話家体お度や右側
 獲き裏家も潔く新糸神理小亭ながら賈十倍のこ
 捌かんと主人の周旋緑比島シヤモの仕込を吟味刻目

正調進一者大方お慈心の立トでも透む風味厚味の
 文和調是を狂言の味ものお扱所作事の躍り縁
 鮎のぬきよ在煮火の知んふとを煮て鶏印の厚焼を積りの
 料理家の口饅を請 加んもの於定六二人あままを一本
 の合つけのあがりめの肉衛をいもどり子御飯も
 尾さすお會計のなるも廉くて味くて氷重の當世東京の
 隅のすき色四圍礎まて西評判見世間の新り氷や通
 のよらび驚き根生る松の家枝葉堂を御取まよ
 此のあきの程頼まけい ころんかりて 瀬川如皋演
 當月十月明日より浅草並木町西側の落次
 當日藤系 四月平 好あんま 松造家



2-2-49